



《題字・森神紫陽》

花園会女性部お蔭さま運動

20年以上続く「おかげさま運動」の一環として、今年も特別養護老人ホーム直川苑へたくさんのタオルを送りました。

直川苑から立川邦彦施設長さんと入苑者代表の大鶴：久保田弘さん（92歳）と堂師：廣瀬宏子さん（71歳）が出迎えてくれました。

正定寺女性部から飛河浩美事務局さんと戸高タカヨ監査委員さんそれに大竹琴美顧問さんが出向き、女性部会員から届いたタオルを贈呈致しました。



たくさんのタオル



直川苑関係者と入苑者

第62号

正定寺花園会広報

平成26年冬発行 発行所 一部単価135円(非売品)

世話人扱い：232戸 寺直轄扱い：156戸

〒879-3104 大分県佐伯市直川大字仁田原 寶林山正定寺内

TEL0972 (58) 2190 FAX0972 (58) 2192

URL <http://syoji.com/> e-mail shoji@saiki.tv

住職 小原南陽 閑栖 小原寿山

門大施餓鬼会



21日(前日)は施餓鬼準備を女性部の方からご加勢を頂きました

9月22日(月曜日)午前11時より恒例の「山門大施餓鬼」が行われました。
 参拝者80名が本堂にあつらえた施餓鬼棚に参拝致しました。
 近隣の和尚さん10名がお見えになり、本堂では独特な施餓鬼経の声明と秋風にたなびく五色の施餓鬼旗の音がいまわって神秘的な法要となりました。
 法要には、宇目小野市の長

徳寺様・宇目重岡の長昌寺様・宇目千束の崇圓寺様・弥生江良の洞明寺様・本匠因尾の瑞祥寺様・弥生床木の仙床寺様・佐伯堅田の天徳寺様・佐伯龍護寺の龍護寺様・蒲江丸市尾の梅南寺様・蒲江竹野浦河内の向原寺様の各和尚さま方のご出頭を仰ぎました。今年も二七七戸の檀家さんから五〇七霊の戒名が届けられ、経中で読み上げられました。

※今年の施餓鬼案内は、直川・尾浦の22地区と寺院直轄檀徒62名に限らせて頂きました。
 寺院直轄(村外扱い)の方で施餓鬼申込の希望者は毎年9月1日～10日までに正定寺へ連絡をお願い致します。随時申込用紙をお送り致します。



参拝者のみなさま



平成26年 秋 彼岸山



近隣の和尚さま方



参拝者のみなさま



平成26年 盂 蘭 盆 会



盆中の本堂



盆中の位牌堂正面には
初盆を迎える新仏の白木が並ぶ



内佛もお盆の飾り付けになります



総供養の回向

8月1日（金）から8月16日（土）まで檀家さんの盂蘭盆柵経が行われました。
8月に入ると本堂・位牌堂はお盆の飾り付けになります。
三百十二戸の檀家さんへお参り致しました。
又、遠地でお参り出来ない方や初盆の檀家さんの盂蘭盆回向は、8月16日午前11時から位牌堂で行われました。
遠くは広島から大分市

や別府市からもお参りがありました。
篤信の檀家さんは、昔から和尚さんの自宅盆経が済むとお礼参りとしてあらためて8月12日から15日までにお寺の本堂にお参りしています。
むかし、皆さんのご両親がお盆にお寺にお参りしていた姿を思い出す方もあるのではないでしょうか。今では檀家さんの一割程が昔ながらの風習を守っています。



盆中期間限定で
歴代祖師の頂相や
印可状も荘厳されます





総供養での焼香



8月16日の総供養
(遠地・初盆などのお家)



本堂でお茶を差し上げて
全ての日程を
無事に終えました



《正定寺花園会役員名簿》

- 花園会役員（檀徒総代） 甲斐 照光
- 花園会役員（檀徒総代） 小野 永生
- 花園会役員（檀徒総代） 御手洗 晴視
- 花園会役員（檀徒総代） 安藤 廣美
- 花園会役員（檀徒総代） 村西 栄二
- 花園会役員（檀徒総代） 飛河 浩美
- 花園会女性部会計 大竹 琴美
- 花園会女性部顧問 平井 幸司
- 花園会青壮年副部長 河村 典邦
- 花園会青壮年副部長 小田木 聖孝
- 花園会青壮年顧問

《正定寺花園会地区世話人名簿》

- 内水地区 戸高 浅生 市屋敷地区 柳井 律子
- 椀杭地区 御手洗 堅 堂師地区 野村 浩史
- 岸の上地区 簀戸 寅夫 野の内地区 染矢憲一朗
- 上の地区 小野美智治 立長地区 高橋 忠男
- 細川内地区 小野 浩伸 中道地区 広瀬 茂弘
- 柚の原地区 染矢 豊喜 吹原地区 山内 文男
- 黒岩地区 小野 寛 久留須新中地区 安藤 秀明
- 大鶴地区 久保田和博 竹園地区 竹下 裕
- 羽木蜷地区 大竹 正男 江河内道越地区 吉内 良金
- 神の原地区 安藤 康正 尾浦地区 山本 源義
- 神栗地区 武田 敏秋
- 花園会会計監査委員 安藤 康正
- 花園会会計監査委員 野村 浩史
- 花園会女性部会計監査委員 戸高 松栄
- 花園会女性部会計監査委員 戸高 夕力ヨ

(乍勝手敬称略)

第33回花園地方研修大会及び 第15回花園会青壮年部総会

11月25日（土）～26日（日）に別府亀の井ホテルにて「花園地方研修大会」と花園会青壮年部総会」が開催されました。

花園会本部長の鮎川博道師を迎えて研修テーマ「おかげさま」と題して講演が行われました。

正定寺から村西栄二さん（初代青壮年部長）と今期から青壮年副部長になった河村典邦さん（下直見）と青壮年部員の吉田真祐さん（下直見）が参加致しました。

青壮年部部員は、平成8年8月30日～31日に本山妙心寺で行われた「花園会青壮年部研修会」に矢野薫（79）さんと小野美智治（67）さんが参加



河村典邦さん・村西栄二さん・吉田真祐さん

し同年の11月17日の教区特別布教大会で報告したのが最初です。

その後、平成18年の「第3回花園会青壮年部全国研修会」に村西栄二さん

が、平成19年の「第4回花園会青壮年部全国研修会」に小田木聖孝さんが参加して組織の充実を図ってまいりました。

今期から20代～40代の

青壮年に部員として参加していただきたく募集をしています。

現在の本山登録部員

- *花園会青壮年部部長
依頼中
- *花園会青壮年部副部長
平井幸司（赤木34歳）
- *花園会青壮年部副部長
河村典邦（下直見28歳）
- *花園会青壮年部 顧問
小田木聖孝（仁田原57歳）
- *花園会会計
村西栄二（赤木52歳）
- *花園会青壮年部部員
安藤博光（赤木46歳）
- *花園会青壮年部部員
戸高直人（仁田原44歳）
- *花園会青壮年部部員
廣瀬由樹（赤木27歳）
- *花園会青壮年部部員
吉田真祐（下直見27歳）

※青壮年部の上限を還暦までと致します。

「研修会に参加して」

佐伯市直川下直見
河村典邦

先般、10月25日に臨濟宗妙心寺派花園会の研修会に正定寺様より、初めて参加させて頂きました。その研修会の中でありました、講話の題目「おかげさま」。私が若いためか、普段の生活において、あまり口にした事がほとんどなく、講話の開始までは「おかげさま」という単語には中々受け入れにくい印象がありました。講話より「おかげさま」とは「御蔭様」であり、「蔭」と「影」の「影」を付け、更には「御」を付けたものである。私としては「おかげさま」とはただ単に人を労う為に使われる印象しかありませんでした。ここでいう「蔭」とは何か？なぜ「様」を付け、「御」を

付け謙讓するのか？すぐに講話の中に答えがありました。

蔭とは助けであり、支えなど、実際に見ることが出来ない恩恵である。その恩恵に対して「様」を付け、より感謝を込めて「御」を付ける。この恩恵で身近な存在であるのは父母の恩である。

その話しを聞いた時に一番に私が考えてしまったのが、昨年11月に亡くなった父の事でした。恥ずかしい話ではありますが、これまでは父が亡くなり、悲しさや寂しさが強く、父を思い出してしまいう家にあまりいたくないなど、受け入れられない私がいきました。しかし、自分の内に「あなたの御蔭で」と想うと、これまでの気持ちでは父に申し訳なく、父に恥じない様な生き方をしなくてはならないと感じました。気持ちが悪く感じただけの私とは違い、実際に近い人を亡



くした父と母は私の前ではいつもしっかり前を見ていたように感じられました。

今回参加させて頂いたおかげで、父からどれだけ支えてもらったのかを気付かせて頂きました。これからは常に自分の内に「御蔭様」を持ち、感謝を忘れず、今の自分を見つめなおして行かなくてはならないと気付かされました。

ありがたい研修会に参加させて頂きまして、本当にありがとうございました。

平成26年度
秋季特別布教

11月20日（木）午前10時から12時まで佐伯市蒲江畑野浦の福泉寺で「平成26年度秋季特別布教」が開催されました。

九州東教区第2部の18寺院から80名ほどが参加しました。

講師に愛媛県大洲市城願寺住職の五葉光鐵師を迎えて、本山推進テーマ

の「おかげさま」と題して講演がありました。

正定寺からは、女性部の大竹琴美さんと戸高栄さんに閑栖寺庭の3名が参加致しました。

掃き清められた福泉寺で山中の正定寺とは違った潮風にあたりながら一日を過ごしました。



福泉寺本堂前で
大竹さん・戸高さん・閑栖寺庭・住職

大寒新春大般若会のご案内



平成27年1月20日（火）午前11時より恒例の大寒大般若会が営まれます。

佐伯藩主・毛利伊勢守から賜った現在地に正定寺が再建された、元禄8年（一六九五）に第五世活門和尚が新春1月16日に法要したのが正定寺大般若会の始まりとされています。

現在は、正月20日の大寒に行われ、三百年以上の間、厄除け法要として続いています。

大般若轉讀を終えると定例檀信徒総会もあります。

檀信徒総会では百寿・米寿・新成人の披露もありますのでご家族揃って「般若の風（智慧）」をおうけにお参り下さい。



大般若理趣分



大般若転読



厄除け（厄年・星祭り）の受付

平成27年2月4日の立春から平成28年2月3日の節分の間に誕生日が左記の満年齢になる方は厄年（本厄）とされています。

「正月・五月・九月」のご祈禱月に古来より厄除け法要を行い、特に立春前の正月祈禱がその年の厄払いとされ盛んに行われて来ました。

正定寺では、厄年の星祭りを1月20日の新春大般若会に合わせて行っています。

〔本厄〕〈男子〉昭和49年生（満41才）

〈女子〉昭和58年生（満32才）

〈男女共〉昭和30年生（満60才）

〔廻厄〕〈男子〉平成3年生（満24才）

〈女子〉昭和54年生（満36才）

〈男女共〉平成15年生（満12才）

※本厄の前後の年が「前厄・後厄」となります。

★星祭りの申込

〔本厄の方〕 祈願料は5,000円（手書き木札・御守り・厄除け餅込み）

前もってお寺に必ず氏名・年齢の電話連絡をして下さい。

〔前後厄の方〕 前厄・後厄の申込は大般若の前日にお餅（一臼）を持参して下さい。法要後に御守りをお渡し致します。

当日は
玄關脇の部屋で
総代さんが
ご案内致します。

京都から

小野 潔

（先祖は神内出身）

御檀家の皆様、お変わり御座いませんか。

私を含め遠くに住む檀家は、寺報やホームページを拝見するのをとてても楽しみにしていると思います。

私は今年54歳で京都に8年前から住んでいます。高校まで福岡で生活して大学と社会人で26年間東京暮らしをしていました。若い頃は信仰する心の余裕もなく、仏教や寺院に特別の関心を持っていませんでした。

10年前に父が亡くなったからは、健康と生活に深い関わりがある様に思え、頻りに神社仏閣にお参りするようになり、今年1月に母が亡くなるまで続きました。

そして、母が亡くなった後もその習慣は変わっていません。

京都に転勤になった際

に、妙心寺にもお参りさせてもらいました。

今まで観た事の無い、敷地の広さ大きさに感動し愕然としました。

外の世界とは違う「凛」とした静けさや寺院の歴史の重さを肌身感じました。

東京に憧れた大学生活や都会生活の中で、今の現代人が一様に思うのと同じように近代的なビル建築や高層のスカイツリーを優れた文化文明と思っていました。

しかし、古都の歴史や寺院に接することにより、自分が目にはしている近代的なものとは心の通わない中身のない薄っぺらいもののように思えて、何かを勘違いをしていたのではないかと思うようになりました。

それからは、不幸な事や新しく物事を始める時、悩みがある時には、目には見えない何かに仏壇や仏壇を通して手を合わせようになりました。

特に寺院などお参りに行

くと、何か不思議に心が落ち着きます。

現代人は私も含め、何かと自己中心になり、自分が何のために生かされているのかを見失ってしまいがちです。

仏教を少しでも信仰することが、私たちの生活を安定、浄化させ、精神的にも健全な人生が送れるものと考えています。

最後に、正定寺のホームページのブログなどを拝見し、前より一層に身近に感じられ仏教の信仰に関心を持っています。ホームページがこれからの若い世代の、一つの大きな橋渡しになると確信しています。



花園会女性部忘年会

3年ぶりの忘年会が12月2日午前11時より直川赤木「福寿の郷」で行われました。女性部36名が参加して今年の活動を振り返りながら楽しいひとときを過ごしました。



第1回目の忘年会



今年の忘年会



ねん かい ねん き 年回・年忌の意味

亡くなった家族やご先祖さまの追善供養を年回・年忌と呼びます。
 十王信仰や十三仏信仰などを元に速夜法要から弔い上げとされる三十三回忌までの年月日に随って営む法要です。

ママ知識その3

速夜8回と年回8回の合計16回が専ら故人だけの回向をお唱えする供養です。
 わずか16回しかない法要は、遺族の年齢を考えると喪主が、故人のために16回全てを行うのは極めて難しくなります。

まは、「〇〇家先祖代々」に繰り込まれ各家で永劫護りられています。

ママ知識その1

「法要」という言葉は、故人へたむける経典や読経内容を歳月を主にして表現する言葉です。

ママ知識その4

「法事」という言葉は、行事の飾り付けや営む場所などを主にして表現する言葉です。

ママ知識その2

初七日から一七七日・三七日・四七日・五七日・六七日・四十九日・百ヶ日までの計8回を速夜(中陰)と言います。

平成21年の開山無相大師六五〇年遠諱にも40名の方々がそれぞれ本山の法要に参列して焼香致しました。

法事の仕方Q&A

(Q) 年回をしようと思いがすが、希望の日をいつまでに連絡すればいいですか？
 (A) 1ヶ月くらい前には連絡をお願い致します。

(Q) どのような連絡方法が一般的ですか？
 (A) お寺にお参りして直接申し出る檀家さんやお手紙で尋ねる方がほとんどでしたが、現在では電話やメールといった連絡方法も多くなりました。

(Q) 正式な法要はどのようなものですか？
 (A) まずお寺にお参りしてトーバ回向を行い、その後自宅に和尚さんを招いて読経するのが正式です。

(Q) 自宅に和尚さんをお願いしているご法事と施主方がお寺にお参りするご法事ではどちらが正式ですか？
 (A) 自宅供養が正式な法要ですが、県外の方やご家族がない方などはお寺でする方もあります。

(Q) 自宅法要はどのくらい準備すれば良いですか？
 (A) 仏壇に菓子・果物・お霊具膳・団子などをお供えして下さい。それにお墓参りの「水の華」が必要です。

(Q) 自宅法要はどのくらい時間が掛かりますか？
 (A) 読経とお墓参りで約1時間ほどです。

(Q) 年回のお寺参りには、何を準備すれば良いですか？
 (A) 必ず年回の方の位牌が必要です。また、ご先祖さまへのお供えに供菓子や供果物また献米や献華をお供え致します。

(Q) お寺参りをした場合の自宅仏壇はどうすれば良いのですか？
 (A) ご家族が行っていたように自宅の仏壇にも必ず団子・お霊具膳・お花・果物・お菓子などのお供えは必要です。

(Q) お寺参りの服装はどのようになっていますか？
 (A) ほとんどが礼服(喪服)です。

